

序

1	体外受精、胚移植とは……………	3
	——それはどのようにして行なわれるのか	
2	ブレナンの物語……………	21
	——生命誕生の小さな奇跡	
3	体外受精と胚移植への倫理的アプローチ……………	43
	——いったい何についての倫理なのか	
4	賛成論、反対論……………	71
	——新聞に掲載された議論の要点	
5	胚の道徳的地位……………	95
	——二つの立場	

6	参加者の了解にもとづく同意……………	123
	——だれが参加し、だれが同意するか……………	
7	体外受精、胚移植に関連した性倫理……………	137
	——人間の生殖能力の適切な使い方……………	
8	体外受精と家族……………	151
	——体外受精は家族関係や社会にどのような変化を与えるか……………	
9	創造された個人……………	165
	——人間性の基本概念を脅かすもの……………	
10	代理母制度……………	181
	——その位置づけと問題点……………	
11	クローニング、体外胚培養、ハイブリッド……………	203
12	体外受精の母親になる日を待つ……………	219
13	結論と費用……………	237

付録 1	世論調査	261
付録 2	体外受精および胚移植にたずさわる医師、科学者のための倫理指針	266
あとがき		269
注		

